

ブルンジ月報(2020年7月分)

主な出来事

1 内政

- (1) 18名の知事の指名
- (2) 上院議員選挙の実施

2 外政

- (1) フランコフォニー国際機関(OIF)への制裁解除を正式要請
- (2) 東アフリカ共同体(EAC)から脱退の可能性

3 経済

IMF が債務救済を決定

※以下は、明示的に記載したものを除き、ブルンジ・オンライン・メディア IWACU の報道の取りまとめ。

1 内政

(1) 18名知事の指名(RFI)

7月10日、ブルンジ上院議会が、大統領に指名された18名の知事を承認した。18名のうち、6名が軍、警察等の高官から指名された。知事職に、軍や警察出身者が就くことはおよそ20年ぶり。2018年の憲法改正により、軍や警察出身者が行政職につくことが可能になっている。また、18名のうち、フツ族出身者が15名であるの対し、ツチ族からは3名のみとなっている。

(2) 上院議員選挙の実施

7月20日、上院選挙が実施され、与党 CNDD－FDD が36議席中34議席を獲得するという大勝利に終わった。しかしながら、一部地域では、野党に所属する選挙人が拘束され投票日に不在であった事案等が生じており、選挙の公正性を疑問視する声もある。

2 外政

(1) フランコフォニー国際機関(OIF)への制裁解除を正式要請(RFI)

7月9日ブルンジがフランコフォニー国際機関(OIF)に同機関によるブルンジに対する制裁解除を正式に要請した。同要請は、フランコフォニー常任理事会においてなされ、事務局職員によれば、参加国は制裁解除に対して好意的な反応を示したとのこと。同制裁は、2016年から、ブルンジ国内で暴力や人権侵害がなされていることを理由として、ブルンジとの多国間協力を停止するために実行されている。外交筋によれば、OIF はこれまで制裁に対して譲歩をせず同様の説明を繰り返してきたブルンジとの状況改善を図るため、今回の政権交代を機会に、

制裁解除を検討する決定をしたとのこと。

(2) 東アフリカ共同体(EAC)からの脱退の可能性(East African 及び IWACU)

7月6日東アフリカ立法議会(EALA)が、ブルンジ及び南スーダンが EAC への分担金の未払いを続けていることを理由に、同二国を EAC から脱退させることを提案する決議を採択した。最終的に二国が脱退するか否かは EAC サミットによって決定される。ブルンジ人 EALA 議員は、EAC 条約によれば加盟国の脱退を決するのは、EAC サミットであり、EALA には加盟国の脱退について何ら権限を持たないとしている。EAC への分担金は 800 万ドルで、ブルンジの未払い金は 1500 万ドルに及ぶ。ニビギラ EAC 担当大臣は、「ブルンジは EAC 加入以降、幾度となく分担金の支払いを遅れてきたが脱退に至ったことはない。今年もこれまでと何ら変わりなく、問題にはならない」としている。

3 経済

IMF による債務救済の決定

7月20日、IMF 理事会は大災害抑制・救済基金(CCRT)により、ブルンジに対する763万ドル分の債務救済を7月21日から10月13日までの期間で実施することを決定した。IMF は、同債務救済により、保健衛生の分野や緊急支出のための財源の確保及び新型コロナウイルスが国際収支統計にもたらす影響を緩和されると説明している。古澤満宏 IMF 副専務理事兼理事会臨時議長は、ブルンジ経済が新型コロナウイルスによる影響を被っており、同国の予算及び国際収支への支援が特に必要であったとし、国際機関やドナー間で緊密に協力すること及び保健衛生などの優先的分野への支出に十分な財源を確保することが重要だとしている。

(了)